

2019年度 事業報告

特定非営利活動法人 相模原ボランティア協会

《概要》

2019年5月1日に新天皇が即位され元号が令和となりました。2019年度の日本の状況は、台風15号、19号や豪雨などによる被害に加え2020年1月以降に日本に上陸した新型コロナウイルス感染症問題で揺れています。

当協会は、2019年度総会で役員の種別及び任期の定款変更や正会員の初年度の会費免除などを決め、そして理事会でハンディキャブ（HC）運転手の80歳定年制を決めてスタートしました。

事業面を見ると、総合企画委員会では地域ボランティアグループとのネットワークについて検討しました。HC事業は定年制の導入による運転ボランティアの不足などにより稼働率が大幅に減少しています。ボランティア養成事業は、7月のコース別講座に傾聴コースを導入しましたが、3月の講座はコロナ感染症の影響で中止としました。傾聴活動の利用者は前年比1人増となりました。情報発信事業の「ぼらんていあ通信」は8ページから6ページの構成としました。又、3月の「ぼらんていあ通信」は他所の印刷機を借りて印刷し、若干遅れての発行となりました。ホームページや「わくわく」は順調に推移しています。

障がい者団体との交流事業については、10月の「ほかほかふれあいフェスタ」は台風19号接近のため中止としましたが、12月の障害者週間に合わせたキャンペーンで2000人の方々にPRさせて頂きました。さらにボウリング大会は盛大に開催することが出来ました。

「協会らしい」事業として住まい探し、就労支援、放課後デイサービスなどの支援活動を進めてきましたが、2月、3月は就労支援や放課後デイサービスの支援活動はコロナ感染症の影響で中止となりました。

前述の通り2月、3月はコロナウイルス感染拡大の影響によるあじさい会館の貸室中止により、理事会や各委員会は中止や書面審議となりました。

以上のように事業を進めてまいりましたが、これは会員の方のご協力なしにはできなかったことです。ここに改めて会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

《特定非営利活動にかかわる事業報告》

1. ボランティア活動の総括

ボランティア団体、市社会福祉協議会、行政との協働のもと、移送援助活動や日常生活支援などを通して障がい者、高齢者の社会参加を拡大していく事を目指しました。さらに「協会らしい」事業として住まい探しや就労支援のお手伝いを実施しました。そして事業運営円滑化のための事務局の増強、財源確保のための活動を行いました。

《ボランティア動員数》

	利用者数 (年間延人数・回数)	ボランティア (年間延人数)		備 考
		協会員	その他	
H C 事業活動	1,133 名	804 名		運転及び介助ボランティア
交流事業				連協他団体と協業、(10 月は開催中止)
・若葉まつり	—	52 名	13 名	
・ほかほかふれあいフェスタ (障害者週間キャンペーン)	2,000 名	10 名	35 名	
・新春ボウリング大会	54 名	15 名	2 名	
傾聴ボランティア活動	222 回	433 名		対象者 23 名、活動者 32 名、
ボランティア養成講座	26 名	27 名	21 名	委員会 70 名
広報活動	—	276 名	71 名	月刊、季刊誌、ホームページ
事務局	—	777 名	庶務 357 人・H C 調整業務 320 人 (月～土)	

2. 高齢者、障がい者への援助活動

(1) ハンディキャブ運行事業

単独で外出困難な人々の支援を行うために2台の福祉車両とセダン型車を活用して「安心と安全を運ぶ」をモットーに延べ796回に及ぶ運行を行いました。昨年度実施した南地域の新規利用者の受け入れ中止についてはあじさい地域からの運転者派遣等の施策により新規受け入れを再開しました。これからの課題は運転者高齢化の問題です。新しいボランティアの獲得については、ボランティア養成講座等で次代を担う人材獲得に努めました。その他小中学校の「みんないい人体験講座」にも参加しています。

《2019年度の運行実績》

運行種類	内 容	件 数	利用者数	運転ボラ	介助ボラ
一般運行 (内セダン型運行)	通院・外出 ・買い物等	796 件 (263)	1,133 名 (379)	796 名 (263)	8 名 (0)
学校協力事業	体験学習など	3 件			

[ハンディキャブ新規利用者訪問]

事務局の活動として行う新規利用者訪問はH C 運行事業の基本となるもので、訪問時に「申し込みのキッカケ」を聞き、身体状況の把握、利用の必要性、利用の目的などを把握して、利用会員入会申込を受付けます。昨年度より実施していた南地区での受け入れ中止は10月に解除しましたが、入会数は減っています。

2019年度の利用会員総数は71名となっています。

・新規利用者訪問実施状況

	2017年度	2018年度	2019年度
申 込	42	19	19
訪 問	31	11	14
訪問者延人数	61	22	28
入 会	30	9	13

(2) ボランティア団体とのネットワークづくりと交流事業の開催

ボランティア団体とのネットワークづくりについては、傾聴委員会が市内で傾聴活動をしているボランティア団体に連携活動準備のためのアンケートを実施しましたが十分な資料を得られていません。ぼらんていあ通信及び季刊誌わくわくでボランティア団体を紹介する記事を掲載しました。

さらに市民若葉まつりへの参加、障がい児者団体等と連携することにより、ほかほかふれあいフェスタ、ボウリング大会を開催しました。

(イ) 市民若葉まつり

市民若葉まつりの福祉バザーでは実行委員会事務局を担当し、福祉施設や福祉団体の参加を得てけやき体育館で行いました。このバザーでは出品依頼を正会員及び利用会員に呼びかけ、多くの協力を得ることができました。

市社協の主催するふれあいふくしブースには模擬店を出店し、のり巻き、串だんご、玉こんにゃくの販売の他、(株)イノウエ様より組紐体験機を4年連続でお借りし、大勢の人に喜んでいただきました。

パレードにはハンディキャブ号とセダン車各1台が参加、外出援助活動への参加、協力を訴えました。

(ロ) ほかほかふれあいフェスタの開催

障がい者、ボランティア、市民との交流を目的とする「ほかほかふれあいフェスタ2019」は、2019年10月12日(土)に相模原市、相模原市教育委員会、相模原市社会福祉協議会、相模原市社会福祉事業団の後援を得て、あじさい会館およびウェルネスさがみはら前広場での開催に向けて各参加団体により準備を進めましたが、台風19号の影響が心配され開催中止となりました。参加団体を紹介するあじさい会館でのロビー展示は10月7日から11日まで行いました。

さらに、11月30日(土)には障害者週間にちなんで、サンデッキ相模大野で障がい福祉に関する市民の関心と理解を得るためのキャンペーンを実施し約2,000名の方にPRしました。なお、今回は物品販売(はやぶさ、のびやか)を行い、場所を盛り上げる効果がありました。来年実施の際は団体の活動内容の説明についての展示などで工夫することとしました。

(ハ) 障がい児者とのボウリング大会

今回で36回目になる障がい児者との新春ボウリング大会を2020年2月15日(土)に無償提供された相模原パークレーンズを会場として開催しました。参加者は身体・知的・精神に障がいのある人46名とその家族・支援者並びにボランティア、当協会関係者、ぼらんていあ通信取材班を含めて総勢71名でした。実行委員会は準備会議として11月2日、2月1日、総括・反省会議として2月29日に行いました。

(3) 傾聴活動

当協会は、2014年度から居宅訪問型の傾聴ボランティア活動を開始しました。当協会の基本ルールは月1回1時間程度、居宅を2人で訪問しお話し相手をしています。介護保険ではヘルパーは会話の余がなく、その部分を傾聴ボランティアがカバーするという趣旨です。利用者の紹介は市社協ボランティアセンターやケアマネージャーの紹介の他、ハンディキャブ利用会員へのパンフレット配布や上溝地区を対

象に居宅介護事業所のケアマネージャーへの活動紹介を試験的に行いました。

2019年度は222回の傾聴活動を計画し、利用者は23名でした。これまでの傾聴活動の推移は次の通りです。

《傾聴活動の推移》

年度	活動件数	実利用者数	実活動者数	延べ活動者数	直前中止件数
2015	61	11	16	139	—
2016	75	12	20	154	11
2017	148	14	27	310	7
2018	158	22	32	354	27
2019	222	23	32	433	36※

※新型コロナウイルス感染予防対策のために3月は訪問活動を自粛したことが影響しています。

(4) 就労困難な方々への社会参加の機会づくり

厚生労働省の委託事業・相模原市委託事業として、NPO法人文化学習協同ネットワークが運営している「さがみはら若者サポートステーション（通称「さがみはらサポステ」で、ニートや引きこもり状態の若者の“新しい自分づくり”と“しごと探し”を応援している組織）」に対する支援・協力の一環として同組織を利用している若者が来所し、当協会が発行している「ぼらんていあ通信」の発送業務（発行物の四つ折り、封入、切手貼り等）を発送ボランティアと一緒にしています。作業を通して気軽に会話を交わすことで、職場での対人関係の育成訓練に寄与することを目指しています。2019年度の発送業務への参加実績は2019年4月23日～2020年2月18日迄で、計11回71名の参加がありました。

(5) 家具転倒防止のための援助活動

高齢者や障がい者を対象に家具転倒防止のための援助活動を相模原災害ボランティアネットワークと協働実施しています。2019年度中の依頼は2件あり6月及び11月に2件実施しました。

この活動は市危機管理課が作成しているチラシにボランティア協会の活動として紹介されています。

(6) 住まい探しのための援助活動

相模原市の高齢者等住まい探しの相談事業の窓口である公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会（まち協）からの要請による「住まい探しサポーター」としての活動も6年を迎えました。今年度、相談会は計画6回のうち5回実施され、延べ10名を派遣しました。また、サポーターとして業者へ同行する活動に1件2名が参加しました。3月の相談会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

相模原市とまち協の相談会等事業の連絡会議にも2名参加しました。

3. ボランティア養成に関する活動

ボランティア活動を始める人を対象に、2019年7月に基礎講座、コース別講座を開催し、人材育成に取り組みました。さらに2020年3月（入門講座）には脱高齢者／いきがい講座を企画いたしましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。

《受講者数》

基礎講座	コース別講座修了者（内訳下表）	入門講座（春講座）
26名	27名（追加募集を含みます）	中止（参加申込13名）

《コース別講座修了者内訳》

外出援助	高齢者支援	音訳ボランティア	福祉車両の運転・介助	傾聴ボランティア
1名	1名	11名	1名	13名

4. 情報発信に係わる事業

当協会の発行する「ぼらんていあ通信」は1981年以来毎月発行し、2020年3月で通巻460号となりました。当協会の活動報告、講座、イベントの記事やボランティア団体への訪問記事、クイズ、イラストなどに加え、ボランティアの募集、市社協の活動内容記事、市内で活躍する会社紹介も掲載しました。「ぼらんていあ通信」の配布先は会員以外にも市内のボランティア団体、公民館や学校などにも配布し、情報提供を図りました。また6月号（451号）より構成を6ページに変更しました。

季刊のボランティア情報誌「わくわく」は45号～48号を発行。ボランティア関係の座談会や、福祉に関する情報提供も盛り込み、毎号300部を発行しております。

協会のホームページは、今年度はさらに読みやすいページにするよう工夫をしました。閲覧者も月平均1,000名を超えており、これからの情報発信の有効な活用が期待されます。

5. 外部会議等への参加

当協会は、相模原市の社会福祉審議会、精神保健福祉審議会、地域福祉推進協議会、福祉のまちづくり推進協議会、防災市民会議、市社会福祉協議会のボランティア・市民活動団体部会の委員を委嘱され派遣しています。さらに社会福祉事業団の監事も委嘱されています。

また、相模原災害ボランティアネットワーク（SSV）の運営委員として、SSVの運営に係わっています。

6. その他の事業

(1) 法人運営、HC調整のための活動

法人運営と日常の連絡調整を行うための事務局についてはあじさい連絡所で運営しています。事務局員や事務局サポーターの大きな協力のもと推進してきましたが、組織に必要な配置が十分できておらず、一層の強化が必要です。

また、市社会福祉協議会の中央ボランティアセンターとの連携を取りながら円滑な運営に努めています。事務局運営体制の整備、役割分担については、2019年度1名の採用という結果で、体制整備が充分進まず、事務局運営に関しては事務局サポーターに依存する部分が多く、依然として継続課題となっています。役割分担については理事会において継続検討事項となっています。

(2) 活動財源確保のための活動

会員の皆様には認定NPO法人制度を利用した寄付促進の説明をぼらんていあ通信に掲載しました。また、イオングループの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」へ参加しました。

市民若葉まつりでは福祉バザーへの参加、市社協ふくし・ふれあいブースの模擬店へも参加しました。

(3) 新規正会員勧誘の活動

ボランティア養成講座や入門講座の最終日に協会やハンディキャブの説明および申込み窓口を開設し新規会員の獲得を推進しました。当協会のホームページ、市民活動サポートセンターの紹介資料にも掲載しました。

《直近5年間の正会員数推移》

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
正会員数	115名	121名	118名	116名	115名
当年度入会者数	20名	23名	12名	11名	15名
前年度退会者数	13名	17名	15名	13名	16名